最優秀 LOM 地域社会向上プログラム

Best Local Community Empowerment Program

LOM名

一般社団法人新潟青年会議所

基本情報

事業名

第83回新潟JCフォーラム ニイガタ防災サミット〜いつか来るその日に備えて〜

目的

【事業の背景】

近年、日本各地で頻発している大規模な自然災害は多くの尊い命を奪 い続け、私たちの住まう新潟もまた、この巨大災害発生のリスクから 逃れることはできない。備えていれば救えたはずの命もあったという 事実を受け止め、いつか起こりうる巨大災害に対して、私たちのかな らず市民一人ひとりが、地域社会を守るための行動を起こす必要があ

- る。 以上を背景とし、 1・防災インフラのハード・ソフト両面の知識を深めること。 2・災害に対する当事者意識を高めること。

を目的とした

開始日※日付で記載

2019年11月15日(金曜日)

終了日※日付で記載

2019年11月15日(金曜日)

事業対象者

- 一般参加者・行政関係者・防災に関わる団体
- 一般社団法人新潟青年会議所メンバー・JC関係者

SDGs の該当項目

該当項目を1つのみ選択

[13]

気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。

Active Citizen Framework「展開」の項目での3項目の発展段階から 選択 ①健康な身体と精神 ②教育と経済力強化 ③平和・繁栄・持続 可能性

③平和・繁栄・持続可能性

概要

【趣旨】

近年日本各地で自然災害が頻発し、甚大な被害を出している。私たちの住まう新潟にもいつ起こりうるかわからない自然災害に対し、被害を少しでも抑えるために、私たち一人ひとりが自らが住まう新潟に 起こりうる災害発生リスクを認識するとともに、防災のハード・ソフト両面の知識を深めることで、有事の際には自らが地域社会を守るという当事者意識を高め、平時より備える行動を起こすことを促す。

・防災・危機管理アドバイザーによる基調講演

実践的防災・危機管理の第一人者である山村武彦氏より防災対策につ いてプロとしての視点から、防災インフラに関する主にソフト対策の必要性と具体的な事例をあげ、「平時である今だからこそできる備え」 をすることの重要性を伝える。

・パネルディスカッション 防災・危機管理アドバイザー、新潟県副知事、国土交通省北陸地方整 備局局長がそれぞれの立場から防災について議論を行う。

新潟の置かれている現状に対して、行政が行う防災・減災への取り組みとその限界を伝えるとともに、自らの命を守るための具体的な行動を議論してもらうことで、当事者としての防災意識を高めてもらう。

・防災関連写真パネル展示・スライドショー

フォーラムの前後の時間に、ホワイエにて新潟地震の写真パネルを展示して私たちの地域で起こった過去の災害を学んでもらい、防災・減災の必要性を理解する一助としてもらう。

また、新潟地方気象台が所有する新潟地震の写真データをスライドショーにしてモニターにて上映し、過去に私たちのまちで起こった巨大災害の記録に触れてもらうことで、自分たちも巨大災害から逃れるこ とができないということを真に実感してもらい、危機管理意識を高め てもらう。

・防災グッズ展示

申請担当者名

Junior Chamber International Niigata (JCI Niigata)

Basic Information

Name

Disaster Prevention Forum in Niigata - Be Prepared for Catastrophe! (The 83rd JCI Niigata Forum)

Purpose

The purposes are to have participants to:

- 1. Know tangible & intangible disaster prevention infrastructures
- 2. Increase proactivity for disaster prevention
- 3. Take preparative actions during this peacetime

Large-scale natural disasters have taken many lives. This risk is also inevitable for our city Niigata.

Each of citizens needs to know that more human lives could be saved if well prepared, and to take actions to protect the local community from possible future catastrophes.

Start date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要

End date

JCI ウェブフォームは、カレンダーから選択方式なので記載不要

Target

Civil participants, local government officials, disaster prevention organizations,

JCI Niigata members, JCI related parties

Sd goal

[13] Climate Action

Development stage

"Health and Wellness" • "Education and Economic Empowerment"・"Peace, Prosperity, and Sustainability"から選択

Peace, Prosperity, and Sustainability

Overview

[Aims and objectives]

As natural disasters are more frequent and intense, damages caused by natural disasters are growing over time. To mitigate these damages, this program aims to to have participants to:

- Recognize disaster risks in the neighborhood
- Know tangible & intangible disaster prevention infrastructures
- Increase proactivity for disaster prevention
- Take preparative actions during this peacetime

[Contents of Project]

- Keynote Lecture by Japan's Leading Anti-Disaster Authority Mr. Takehiko Yamamura, a leading authority in practical disaster prevention and crisis management in Japan, lectured the necessity of intangible disaster prevention infrastructures, and the importance of preparation during peacetime.

- Panel Discussion

Three panelists, the anti-disaster & crisis management advisor as above, the vice-mayor in Niigata Prefecture, and the chief official at Hokuriku Regional Development Bureau, discussed disaster prevention from their own viewpoints. They discussed governmental measures & limitations and informed of self-help, on-the-spot and life-saving actions.

- Documentary Photo Panels and Slide Show Documentary photo panels of the Niigata Earthquake in 1964, one of the deadliest past local disasters, were exhibited at the foyer. Photos owned by Niigata Local Meteorological Observatory were also projected as a slide show. These were meant to educate that a big disaster is inevitable for anyone, and to increase risk awareness.

Disaster Product Showcase

Disaster equipment and supplies were exhibited at the foyer to educate and interest participants.

ホワイエにて防災グッズの展示を行い、実際の防災グッズを見て触れてもらうことで、平時からの備えについて学んでもらい、参加者の防 災意識の向上につなげる。

【その他】

・調査・研究報告書の作成・配布

年間を通して行っている、インフラと防災にかかる調査・研究で学び えた内容に、国土交通省との定例勉強会で得た知識を織り交ぜ、防災 インフラについてハード、ソフト両面から考察した内容の報告書を作成し、フォーラム参加者、関係諸団体、調査・研究訪問先等に配布。

【事業への工夫】

- ・新潟県(行政)が発行している家族防災会議のすすめを提供してい ただき、来場者523人に配布した。フォーラムの中でも、家族との共有の必要性に触れ、必要性を伝えた。
- ・フォーラム会場場外にて、新潟地震のパネル展示、防災用品の展示し、プログラム外の時間に学びを得る機会を提供すると同時に、会場の賑わいの演出を図った。
- ・年間の調査・研究を取りまとめた報告書を配布した。フォーラムの 内容を補完すると同時に、来場者523人に持ち帰っていただくこ とでフォーラムに参加しなかった人への波及効果も期待される。 ・一般参加者269名に事後アンケートをした結果、「本フォーラム全 体を通じて、防災インフラに関するソフト・ハード両面の必要性を
- 理解し、有事の際には自らが地域社会を守る当事者であるべきと感じることができましたか」の問いに対し、99%の方から「とても 感じた」「感じた」との回答をいただいた。

【実施場所・会場】

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館

- · 劇場 フォーラム
- 写真パネル・スライドショー、防災グッズ 展示 ・ホワイエ

① 目的・財務計画・実施 このプログラムの長期的な目的を記述してください。

- 1・防災インフラのハード・ソフト両面の知識を深めること。2・災害に対する当事者意識を高めること。
- 3・平時である今こそ備える行動を起こすこと

以上を目的とし

まずは参加者が防災に対する意識を高め、備える行動を促す。その行 動の1つとして、家庭や職場などに持ち帰って、それをまた広めてもらう。地域社会の防災意識を上げることで、災害が発生した時に一人 でも犠牲者、被害者を少なくする。

過去の災害を風化させない。

過去の災害に学び、後世へとしっかり受け継いでいく。

このプログラムが、どのように JCI 行動計画に準じているかを記述してください JCI Plan of Action を参照して、インパクト Impact(影響力)・モチベート Motivate(意欲)・インベスト Invest(投資)・コテルアート Collaborate(協働)・コネクト Connect(つながり)についてよれぞれ記載してください。 がり) についてそれぞれ記載してください

【影響力】

- ・行政機関と連携してプログラムを行うことで、より地域災害におけ る市民の関心が高まり普段からの防災に対する意識を高めた。
- ・直近で頻発した台風や地震などの自然災害で危機感が高まる中で防 災を自分事として向かい合い参加者523人の意識を変えることが できた。また、参加者に対するアンケート結果より、家族や会社、 身近な関係な方々へ周知する等、プログラムの内容を広く周知して いただくことができたと考える。
- ・行政関係者との関係性を深められたことで、今後、青年会議所の行 う事業での連携も取りやすくなった。

・防災への取り組みの必要性を認識した参加者523名が、身近な家 族、会社などの地域社会を守るための積極的な行動を起こす意欲が 高まった。

・調査・研究報告書を作成して参加者、関係団体、図書館等に配布し た。今後大勢の方に読んでいただくことで、防災について学んでも らうことができると考える。

【協働】

- ・国土交通省や行政関係者と、勉強会・交流会を開催し、防災への情 報共有を図った
- ・関係団体との防災訓練等を合同で行う等の活動を行った。

【コネクト】

- ・行政関係者、その他防災に関係する団体への協力体制の構築ができ
- ・過去の災害での被災地域の方々との繋がりができ、関係強化するこ

予算計画通りにプロジェクトを実行できましたか? 予算上の工夫や、予算の内訳の概算を記述してください

[Others]

Research Report

We had had regular meetings with the Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism (MLIT) to increase related knowledge. Putting the findings to our year-round research, we created a report on disaster prevention infrastructures, from tangible & intangible viewpoints, and distributed copies to participants, related organizations and research interviewees.

[Efforts & Intentions]

- 523 copies of "Introduction to Family Disaster Prevention Council", a enlightening booklet published and provided by the Niigata Prefectural Govt., were distributed to participants. We recommended a family discussion during the forum.
- Documentary photos and disaster product exhibition was another learning opportunity, as well as to create an atmosphere at the venue.
- Copies of our research report were distributed as a supplement, which would also enable future readers to learn the content.
- 269 Non-JCI participants responded to our survey. 99% of them recognized "disaster prevention infrastructures are necessary for us", and that they "should be the ones to protect our local community.

[Venue]

Ryutopia, the Niigata City Performing Arts Center

- Forum at Theater
- Documentary photo panels, a slide show, anti-disaster products at Foyer

Objectives, Planning, Finance and Execution What were the long-term objectives of this program? **200

The long-term objectives are to have the wider public to:

- 1. Know tangible & intangible disaster prevention infrastructures
- 2. Increase proactivity for disaster prevention
- 3. Take preparative actions during this peacetime

Lessons learned from past disasters should be well remained and passed to the future. We started with educating participants, expecting them to spread our ideas to their home and office.

This would raise awareness of the whole community, and reduce fatalities and injuries during a disaster.

How does this program align to the JCI Plan of Action? ** 200 単語まで

- The forum was held timely during a more disaster-prone time period. With its strong impression, we were able to change the mindset of 523 participants. Survey data shows that the participants widely spread our program to their family, business or those around them.
- Tie-up with local administration helped to gain the civil interest in near disasters and preparedness.
- The deepened relationship with administration would facilitate another tie-up in our future projects.

[Motivate]

- 523 participants recognized the need for disaster prevention and were motivated to take proactive actions to protect their family, business and the community.

[Invest]

We distributed copies of the research report to participants, related parties, and public libraries to have much more readers to learn disaster prevention.

[Collaborate]

- We had regular meetings with MLIT and other government officials, to share information on disaster prevention.
- We had emergency preparedness training with related parties.

[Connect]

We established cooperation with local government officials and other parties regarding to disaster prevention.

We established and strengthened relationships with people in past disaster-stricken areas

Was the budget an effective guide for the financial management of the project? ※150 単語まで

【予算上の工夫】

- 予算計画を立てて、理事会の承認を得て予算内に実行されました。 その後監査確認で承認を得ました。
- ・事前に青年会議所の事業内容・目的を説明し非営利目的であること を理解してもらったうえで交渉を行い、講師費用を安く抑えてもら うことができた。
- ・パネリストには地域社会で影響力のある行政関係者を選定すること で出演費用が発生しないように選定した。
- ・行政からお借りしてホワイエに展示した写真パネルやスライドショ
- ・付政からか指りしてハフィエに成ぶした子美パイツレにベフェーレコーは予算が掛からず費用対効果が高かった。 ・防災グッズ展示では、実際の防災グッズを見て触れてもらうことで、平時からの備えについて学んでもらい、参加者の防災意識の向 上につなげた。

【事業予算:800,000円】

予算の内訳概算

·会場運営費: 251, 500円 - 講師関係費: 321,000円 - 報告書作成費: 200,000円 - 通信費等: 5,000円

このプロジェクトはどのように JCI ミッション・ヴィジョンを推進し ましたか?

ミッションとヴィジョンに分けて記載

ミッション:より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発 展・成長の機会を提供すること

ヴィジョン: 若き能動的市民の主導的なグローバル・ネットワークになること

【JCIミッション】 過去に起こった災害や、今後起こりうる災害リスクを知り、防災に対 する自身の知識レベルを認識することで、自らの意識を高め成長する

有事の際にはリーダーシップを持って、住み暮らす地域社会を守るた めの行動を起こす機運を高めた。

【JCIヴィジョン】

プロジェクトをきっかけに、防災に対する当事者意識を持ち、家族や 会社での防災への共有や訓練への参加等、平時から率先的な行動を起 こすことができた。

② メンバーの参加

LOM メンバーの事業参加人数を記述してください。(数字で記載)

214名

LOM メンバーの参加率を記述してください(%で記載)

LOM メンバーの主な役割を記述してください。

2018年8月から創案を企画し事業を実施したメンバー								
委員長 杉崎		杉崎	伸也	(統括責任者、コーディネーター、総括)				
副委	副委員長		太郎	(設営責任者)				
副委	副委員長		梓	(運営責任者)				
幹	事	齋藤	俊	(PC操作)				
幹	事	磯部	まおり	(全体司会)				
	員	渡部	貴二巳	(設営補助、JCI Creed唱和)				
委		佐藤	祐輔	(受付・ホワイ工責任者、新潟地震写真パ				
		1223	THILL	ネル管理担当)				
委	員	石﨑	徹	(受付・ホワイエ補助)				
委	員	渡辺	降哉	(講師・パネリスト アテンド)				
委	員	岩野	現	(講師・パネリスト アテンド)				
委委委委	員	古智	祐介	(企業・諸団体訪問、動員管理)				
季		加藤	宏隆	(会場誘導責任者、ドアクローズ、ビデオ				
	_	MANA	ZZPZ	撮影)				
委		佐々オ	ト 敬教					
54	~	KT VA	N. 2V.	ission並びにJCI Visio				
				n唱和)				
委		髙嶋	<u>—</u> <u>\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\\</u>	(音響・照明、PC操作、JC宣言文並び)				
3	央	口口田河	_	に細領唱和)				

このプログラムの地域社会的影響を、どのように測りましたか?

- The budget was planned, approved by the LOM board meeting, confirmed by the auditors after all. The project was within the budget.
- A panelist understood our project purpose and social meanings, which led to a discounted honorarium.
- We invited influential local government officials as panelists, who needed no honorarium.
- The documentary photo panels and slide show were rented for free and cost-effective.
- Disaster products were exhibited at the foyer to educate and interest participants.

[Total Expense Budget: 800,000 yen]

Breakdown:

- Venue: 251,500 yen - Honorarium: 321,000 yen - Documentation: 200,000 yen Communication: 5,000 yen

How does this project advance the JCI Mission and Vision? ※200 単語まで

【参考】

JCI Mission: To provide development opportunities that empower young people to create positive change JCI Vision: To be the leading global network of young active citizens

[JCI Mission]

This project helped participants to know past disasters and future possible risks, to know disaster prevention, and to increase proactivity, preparedness and leadership. This empowered participants to take the initiative to protect our community during a disaster.

This project motivated participants to take proactive actions, such as to promote disaster prevention in their family and business, or to join preparedness trainings, etc.

Membership Participation

By number, how many members were involved in this program? ※2 単語まで

214 members

By percentage how many members of the Local Organization were involved in this program? ※1 単語まで

Describe the main roles of the participating members in this program.

※300 単語まで

Organizing Committee Members, the producers of this program since August, 2018]

Chairperson: Shinya Sugisaki (Chief Manager and Coordinator) Vice Chairperson:

- Taro Nakamura (Chief Site Setup Organizer)
- Azusa Kaneko (Chief Operation Organizer)

Secretary:

- Shun Saito (Computer Operator)
- Maori Isobe (Master of Ceremony)

Member:

- Takafumi Watabe (Site Setup, JCI Creed)
- Yusuke Sato (Manager in Reception, Photo Panels)
- Toru Ishizaki (Receptionist)
- Takaya Watanabe (Attendant to Panelists)
- Gen Iwano (Attendant to Panelists)
- Yusuke Koga (Liaison with Companies/Organizations)
- Hirotaka Kato (Guide, Video Shooter)
- Toshinori Sasaki (Guide, Timekeeper, JCI Mission & Vision)
- Ippei Takashima (Computer and Light Board Operator)

Community Impact

How did the Local Organization measure community impact for this program? ※200 単語まで

本プログラムでは、近年国内外で頻発する自然災害に対して、新潟の 置かれている現状と災害リスクを挙げ、行政が行う防災・減災への取 り組みとその限界を伝えるとともに、自らの命を守るための具体的な 行動を議論してもらうことで、当事者としての防災意識を高めた。 事後のアンケートを実施して、プログラムで得た知識と気づきをどの ように周知させていくかを調査した。

After the forum, we made a survey inquiring how each participant would promote and spread the knowledge and findings to those around them.

このプロジェクトが与えた地域社会への影響を記述してください。

自然の驚異には太刀打ちできないこと、過去に起きた災害で失われた 命の尊さを再認識させるまたは、知ってもらった。 参加者へ事後のアンケートを実施し、

- ・回答者の100%から、「防災・減災に対する備えの必要性」 「新潟の地域社会に求められる防災対策」について理解を得られ
- ・回答者の99%が、防災インフラに関するソフト・ハード両面の必 要性を理解し、有事の際には自らが地域社会を守る当事者である人 きと実感して頂いた。

結果として、身に付いて高まった当事者意識を持ち、取る行動が波及 し、いつか起こる災害から、失われずに済む命が1つでもあると考え る。

Describe the actual community impact produced by this project ※300 単語まで

The survey data shows:

- 100% of respondents understood "the importance of preparedness for disaster resilience" and "measurements needed in our community".
- 99% of respondents understood the importance of tangible & intangible disaster prevention infrastructures, and recognized that they themselves should be the ones to protect the community.

Participants would spread the disaster preventive awareness actions to the community, and many more human lives could be saved during possible future disasters.

このプロジェクトの運営によって、LOM が得たことを記述してくださ

当日参加者 269 名に実施した事後アンケート結果より、本プロジェク トを通じて青年会議所が行う事業の有効性を認知していただけたと考 える。また、協力いただいた行政機関との連携強化を図り、防災に対する課題や目標を共有することができたことで、多方面の分野におい ても、今後の青年会議所の活動に対して協力的な関係性を構築するこ とができた。 地域社会に与える影響力を高めた。

このプログラムによって、どのように JCI ミッションを推進しました か?

ミッション:より良い変化をもたらす力を青年に与えるために、発 展・成長の機会を提供すること ・パネルディスカッションにおいて地域の置かれている現状に対し

- て、行政が行う防災・減災への取り組みとその限界を伝えるととも 自らの命を守るための具体的な行動を議論してもらうことで、
- 当事者としての防災意識を高めた。 ・防災インフラの必要性や防災・減災についての知識を広めることで より良い変化も生み、産業経済の発展に寄与した
- ・ホワイエにて、過去に私たちの地域で起きた地震の写真パネル展示や防災グッズの展示を行うことで、プログラム外の時間にも学びを得る機会を提供すると同時に、私たちの地域で起こった過去の災害 を学んでもらい、防災・減災の必要性を理解する一助としもらった とがより良い変化をもたらす力となった。
- ・当委員会の年間の調査・研究を取りまとめた報告書を配布した。こ の報告書によりフォーラムの内容を補完すると同時に、持ち帰って いただくことでフォーラムに参加できなかった人たちにも発展・成 長の機会を与えられた。

Impact on Local Organization How did the Local Organization benefit from running this project? ※200 単語まで

According to the survey data from 269 non-JCI participants, JCI Niigata acquired recognition for its project effectiveness. Furthermore, JCI Niigata established and strengthened cooperation with local administration, which would facilitate another tie-up in our future projects.

Therefore, we could say we had increased our influence to our local community.

How did the program advance the JCI Mission? ※200 単語ま

【参考】JCI Mission: To provide development opportunities that empower young people to create positive change

- The forum developed awareness, proactivity, leadership expected to protect the community.
- Promoting disaster prevention infrastructures and products would create a positive change to the industrial economy.
- Documentary photos and the slide show provided another opportunity to learn lessons from past disasters.
- Our research report would provide future readers with a development opportunity.

プログラムの長期的な影響

このプロジェクトによって得られると予測される長期的な影響を記述 してください。

参加者が防災に対する意識を高め、備える行動を促す。 その行動の1つとして、家庭や職場などに持ち帰りまたそこからの波 及が起こる。

地域社会の防災意識を上げることで、災害が発生した時に一人でも犠 牲者、被害者を少なくする。

過去の災害を風化させない。

過去の災害に学び、後世へとしっかり受け継いでいく。 失われなくて済む命が必ず増える。

このプロジェクトの改善点・改善策を記述してください。

※マイナスな表現はしないでください。前向きな改善点を記載しまし

Long-term Impact of the program

What is the expected long-term impact of this project? ** 200 単語まで

The higher level of disaster prevention awareness of the whole community would reduce fatalities and injuries. Definitely many more human lives would be saved during possible future disasters.

What changes would you make to improve the results of this project? ※300 単語まで

- 報道機関や、関係団体への周知の仕方、SNS 等の発信方法をより効 果的になるように計画するとより発信力が高まり社会への影響を与
- ・プロジェクトの発信方法について計画段階で SNS 等を上手く活用しもう少し入念に、幅広くできていれば、動員数を増やせた。 ・パネルディスカッションでコーディネーターからもう少し踏み込んだ質問を投げかけるなどすれば、危機感を高める内容にできた。
- ・命の尊さをもう少し組み込んだ内容にしてもよかった。
- More effective promotion methods could have made this project have more influence to the wider public (e.g. press release to the press or organizations, and SNS, etc.)
- Especially, promoting with SNS could have increased the number of participants.
- The panel discussion could have enhanced risk awareness even further if the coordinator could ask deeper level of
- The panel discussion should have emphasized more on the preciousness of human life.

「目的・財務計画・実施」項目に添付する画像を下部に貼付してください



Coastal Levees resist Tsunami

An expert pointed out coastal levees as tsunami-resisting infrastructures. (At a field study in Kamaishi, one of the most affected coastal areas in the 2011 Tohoku Earthquake and Tsunami)

防潮堤が津波を防ぐ

専門家は、津波を防ぐインフラとしての防潮堤の役割を指摘する(釜石 でのフィールドスタディにて。釜石は2011年の東日本大震災で最も被 害の大きかった地域の一つ)



"Tsunami reached that high,"

Listening to a victim's real story in Minami-Sanriku, another devastated city in the Tohoku earthquake. Tsunami reached up to the clock and people in their cars were all swept away.

「津波はあの高さまで行ったんです」

南三陸にて被災者の実体験を聞く。津波は時計の高さまで届き、車に乗 っていた人たちはみんな流された



Still Underway after 9 Years

The chief official at Hokuriku Regional Development Bureau talked about situations at that time and the restoration progress so far.

It has been 9 years after the Tohoku earthquake, but restoration is still in progress

9年経つが、まだ途上

北陸地方整備局局長が、被災当時の状況とこれまでの復興の状況につい て語る。震災から9年経つが、復興はまだ途上である



Tsunami Swept Everything

A panel depicting how the unexpectedly big tsunami swept the coastal town of Kamaishi.

津波がすべてを流した

予想もしない大津波が釜石の沿岸地域をすべて飲みこんだことを示すパ ネル

「メンバーの参加」項目に添付する画像を下部に貼付してください



Against Repeating Floods

Organizing committee members had meetings with MLIT officials.

In this photo we visited to learn measures against river flooding.

Our city Niigata is historically a flood-prone area as it has the two biggest rivers in Japan.

洪水への備え

担当委員会メンバーは、国土交通省と定例勉強会を行った。この写真では、河川の氾濫への対策を伺っている。我々の街である新潟は、日本最大の河川が2つあり、歴史的に見ても洪水が多発する地域である。



Against Heavy Snowfall

Another meeting with MLIT officials. In the photo we visited to learn measures against heavy snowfall, which is typical in Niigata but extreme and harmful during the recent climate change.

豪雪への備え

国土交通省の別の勉強会。この写真では、豪雪への対策を伺っている。 豪雪は新潟ではよくあることだが、昨今の気候変動の中で極端になり、 雪害ともなっている



Learn to Cooperate

A disaster cooperation simulation game titled "Direct Road" was played in our open meeting, involving many LOM members. This game enabled us to actively learn how to cooperate to save lives.

協力することを学ぶ

「ダイレクトロード」という災害協力シミュレーションゲームを、多くの LOM メンバーを巻き込み公開委員会にて行った。このゲームによって、命を助けるために協力することを能動的に学ぶことができた



Preparing for the Game

Organizing committee members had a test play to understand and facilitate the disaster simulation game

ゲームへの準備

担当委員会メンバーは、災害協力シミュレーションゲームを理解し円滑 に進めるため、事前にテストプレイを行った

「地域社会への影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください



3 Influential Panelists

Panel discussion with 3 influential disaster experts as panelists.

3名の影響力のあるパネリスト

影響力のある専門家3名をパネリストに迎えたパネルディスカッション の様子



Lessons to be Passed On

Participants were looking at photo panels of the Niigata
Earthquake in 1964, one of the deadliest past local disasters. This
helped to relive the past memories and lessons for the future.

伝えるべき教訓

新潟における過去の大きな災害の一つである新潟地震 (1964年) の写真 パネルを見る参加者たち。未来に向けて、過去の記憶や教訓を呼び起こ す助けとなった

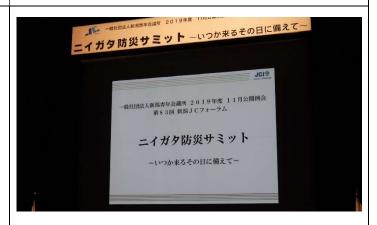


Products as a Solution

Disaster equipment and supplies were exhibited and participants took each product in hand.

解決策としての商品

災害用品は展示され、参加者は手に取ることができた



Audience of 523 People

Our presentation material for the forum, with the title saying

"Disaster Prevention Forum in Niigata - Be Prepared for

Catastrophe!" The forum enabled us to give a presentation to the

wide-audience of over 500.

523 名の聴衆

フォーラム名「二イガタ防災サミット~いつか来るその日に備えて~」 と書かれた投影用資料。このフォーラムで、500人以上の聴衆に対し てプレゼンテーションを行うことができた

「LOM への影響」項目に添付する画像を下部に貼付してください

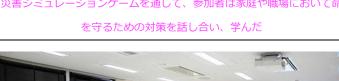


How We Save Lives

Through the disaster simulation game, participants discussed and understood life-saving measures in their home and office.



災害シミュレーションゲームを通じて、参加者は家庭や職場において命











Realizing a Resilient & Sustainable City

The damages and the restoration process in affected areas show us disaster-resilient and sustainable city development.

災害に強い、持続可能なまちの実現へ

被災地の被害の様子と復興の過程は、災害に強く持続可能なまちづくり を示してくれる



Every Action Counts

The collapsed building of Okawa Elementary School, where 74 children and 10 teachers lost their lives by the tsunami in 2011. This tragedy emphasizes the importance of emergency actions.

行動ひとつひとつが大事

大川小学校の壊れた校舎の様子。2011 年の津波で、児童 74 名と教師 10 名が命を落とした。この悲劇は、災害時の緊急行動の大切さを強調

する



Products that Save Lives

Another photo of the disaster product showcase. With those items becoming popular, people would be able to save lives of their own and those around them.

命を守る商品

防災用品展示の様子 2 枚目。こうした商品がもっと普及すれば、人々は 自分の命を守り、また身近な人の命を守ることもできる





Save our Community

Our year-round report titled "Research Report on Infrastructures and Disaster Prevention", expected to have a lasting education effect. If more people know risks & measures, we could save our own community.

地域社会を守る

年間をかけて調査した「インフラと防災にかかる調査・研究報告書」 は、フォーラム終了後も教育効果が長く続くことを期待している。多く の人が災害リスクと対策を知れば、私たちは地域社会を守ることができ